関心をもち、多様性をみとめあおう

意識調査から社会をよみとく　出前講座

和歌山市男女共生出前講座が3月18日、平井文化会館でひらかれ、51人が参加した。

金川めぐみさん

講師は、和歌山大学経済学部の金川めぐみ・准教授で「現代社会の人権について考える～女性・子どもの視点～」と題して講演がおこなわれた。和歌山市「人権問題に関する意識調査」のデーターから、和歌山市民の全体の1／4は人権に関心がなく、人権への関心も年々低下している。講習会や研修会の参加経験は「ない」が79．5％あり、参加しない理由として「関心がない」「機会がない」ということだった。女性の人権については「職場の差別」「固定的役割分担」「セクシャルハラスメント」が多い。子どもの人権について、人権教育の充実と学校教育でのとりくみが重要である。さらに、それぞれの多様性を認めることが最も必要であると語られた。

最近のトピックスとして、LGBT、女性・子どもの貧困、同和問題のあらたな動きをあげ、子どもの貧困連鎖を断つために、教育の支援が最も重要であり、学習支援の充実や2012年ごろから首都圏を中心に「栄養」「居場所」づくりの「こども食堂」がはじまっていることが紹介された。昨年12月に施行された「部落差別の解消の推進に関する法律」にもふれた。

最後に、人権政策はすべての分野にかかわる重要な課題であり、関心をもつことが大切。人権とは「多様性」を認めることであると語った。

西光万吉偲ぶ会

第31回西光万吉先生を偲ぶ会を3月19日、井阪文化会館でひらかれ、県外がからの参加もふくめ、42人が西光さんを偲んで参加した。

はじめに、山本昌代・県連女性部長はじめ、吉本信子さん、岡西邦子さん、飯田信子さん（それぞれ古和田支部）、宮本睦さん（那賀支部）、矢野治世美さん（当時、和歌山人権研究所）による朗読「五万日の日のべ」が披ろうされ、偲ぶ会がスタートした。

山本行圓・顕彰会理事から開会あいさつがあり、加藤昌彦・代表理事の主催者あいさつにつづき、林信良・副市長、若林誠地・那賀振興局局長、藤本哲史・県連執行委員長から来賓あいさつがあった。藤本委員長は、昨年6月から千人を超す来場があった。県連としても、この資料館を拠点に、差別をなくす発信地にしたいとあいさつした。

朝治武・大阪人権博物館館長から「『世界記憶遺産登録運動』と西光万吉」と題した講演につづき、西光先生の思い出・西光万吉邸1周年を記念して」として大賀正行・元部落解放同盟中央執行委員から西光さんと日之出部落とのつながりが紹介された。

さいごに、飯田敬文・代表理事の閉会あいさつのあと、遺影に焼香し西光万吉邸に展示されている資料を見学した。

西光さんが好きだった菜の花を背にあいさつする加藤代表理事

朗読を披ろうするメンバー

大賀さん

朝治さん

主張

崩れた3物証！狭山事件の完全勝利にむけ、全力で闘おう！

今年の5月23日に狭山事件が発生して、54年目を迎える。5月10日には、第32回目の3者協議がひらかれた。

これまでの3者協議のなかで、第3次再審で提出された新証拠は191点になっている。1974年の寺尾判決は鞄、万年筆、時計の3物証を石川さんの自白にもとづいて被害者（中田善枝さん）の所持品から発見されたとして、有罪の根拠としている。いいかえれば、犯人しか知りえない情報によって、物証が発見されているから犯人であるとしているのである。

はたしてそうだろうか。第3次再審では万年筆については、下山鑑定、川窪鑑定により、石川さんの自宅から発見された万年筆は被害者の中田善枝さんのものではなく、脅迫状の訂正に使われた万年筆でもないことが明らかにされた。さらに今回、鞄についても開示された証拠によって、石川さんの自白どおり発見された秘密の暴露とはいえないことが明らかになった。そして、腕時計については、皮バンドの穴の使用状況から被害者が使用していたものではないことが、専門家の報告書で明らかにされている。

毎年8月を狭山闘争月間と位置づけ、全支部で狭山の原点に立ち返り、学習活動を展開し、毎月23日を狭山デーとして県内主要ターミナルで情宣活動を展開している。次の3者協議は7月下旬の予定となっている。5月23日の中央集会の成果や各地域でのとりくみを結集し、全支部において、新証拠の学習・教宣をすすめ、えん罪54年をアピールし、徹底した証拠開示と事実調べ・再審開始を広く訴えていかなければならない。

文化の窓

「ウスリの心でいまを生きよう」

著者：照屋全明
発行：光文社　発行日：2012年11月25日
ISBN978-4-334-97665-1

テーゲーに生きよう。沖縄の言葉で「ほどほど」に「そこそこに」という意味がある。努力や頑張りは大切だが、テーゲーこそが幸せになる秘訣であると記されている。人の死や戦争、テロ、ミサイル発射など毎日のように死と隣り合わせの日々に、心の豊かさを忘れてしまっていませんかと問いかける必見の一冊。

◆お問い合わせは県連・教宣部まで
TEL 073－473－2301